

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	社会福祉法人 あまのほ		
事業所名	グループホーム 楽々むら		
所在地	兵庫県豊岡市城崎町楽々浦419-6		
自己評価作成日	平成27年3月19日	評価結果市町村受理日	2015年 5月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2015年 3月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 職員は一人一人を把握し最期まで安全に安心した生活が送れるように支援している 積極的に看取りもやっている ご利用者と共に献立を考えおいしい食事作りに力を入れている 看護師・医師との連携がとれており、また近隣にドクターヘリの離着地があり緊急時の対応も迅速にできる 理念である“ここにいきいきゆったり”を念頭に“ここで良かった”と思える暮らしを目指している ボランティアやいきいきサロンなど地域交流に力を入れている 職員への教育、研修等充実しており、各々のスキルアップが図れている 敷地内に法人の他事業者があり、大きな行事を一緒に行ったり情報交換や協力体制が万全である 自然に恵まれた環境にあり四季を感じ、心やませることが出来る 散歩にも最適である 常に家族との連携をとり“共に支え合う”ことを意識している
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国立公園内に位置し、静かな自然に囲まれた事業所である。利用者は、認知症を患ってはいるが、自分の役割を持ち、好きなことをしている時の笑顔はとていいきよとしている。個々の出来ることを活かし、時には一緒に行き、共に競い、共に笑い、おしゃべりに夢中になるなど、職員は利用者との信頼関係を築き、穏やかな営みとなっている。個々に過ごす時間も大事にしなが、利用者主体の生活をベースとし、利用者の発する思いや訴えを温かく受け入れてもいる。今年度は、職員のレベルアップを図るなど育成面に力を入れ、ケアの充実、細やかな配慮にも行き届くようになり、利用者同士の良好な関係性にもつながった。最後までその人らしい人生を全うできるよう、今後も継続して、職員の専門性と意識向上に向けた研鑽を期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員の名札の裏には理念を書いたカードを入れ常に共有、意識して実践に繋げている。会議や委員会、研修等皆が集まる場所では復唱する機会を設け、また困った時や迷った時は必ず理念に戻るよう導いている	誰もがわかりやすい具体的な理念を明示している。職員は、自らの姿勢として身に付け、利用者とのふれあいを通じて実践に活かしている。利用者個々のケアの中でも、常に立ち返る原点として振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア活動には職員が参加し交流している。また地域の方のボランティアによる催しも随時取り入れ交流を大切にしている。昨年度より地区のいきいきサロンにも参加し施設を理解していただいたり交流の機会をひろげ馴染の関係が構築されつつある	地域の清掃活動等に継続して参加するなど、情報収集に努め、できるだけ行事には参加するように努めている。法人主催の祭りは、恒例となり、今年も盛況であった。研修スペースを地域に開放するなど、活用を推進している。今年度は地域サロンへの参加機会が得られ、より施設の理解が進んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症の研修の依頼があり、管理者が講師として講義を行った。キャラバンメイトにも2名登録しており今年度認知症サポーター養成講座の依頼があったが都合が合わず参加には至らなかった。機会があれば参加したい。今後職員各々が地域で		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の取り組みを報告し評価、助言をして頂いている。内容については、ユニットに報告をし、改善や新たな取り組みに繋げている。	事業所からは、利用者の様子を中心に、事例を交え報告している。地域代表者からは、地元の情報だけでなく、地域交流促進のための助言やアドバイス等を得、参考にするなど活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、地域包括支援センター職員・民生委員・区長に参加を依頼し、実情を報告、評価や助言を頂いている。特に区長に関しては、区民と施設との橋渡し役として、あらゆる場面で交流を行い、常に良い関係が築けている。また豊岡市の開催する地域密着型サービス事業者連絡協議会にも参加し意見交換など行っている	法人が窓口となっており、事業所としての運営推進会議以外でのやりとりの機会は、少ない。市主催の連絡協議会では、事例発表を行うなど、職員研修にも積極的に参加し、情報交換を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止プロジェクトを設置し、常に拘束、虐待については話し合いを行っている。また、身体拘束・虐待防止研修も行っている。	プロジェクトを中心に、職員は学ぶ機会を持ち、理解を深めている。グループワークをメインに職員個々の気づきを促すことに力点を置いている。研修後のアンケートからも反映し、意識向上に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止プロジェクトを設置し、常に拘束、虐待については話し合いを行っている。ユニット内でも、迷った時には“本人の思いを無視する事は全て虐待にあたる”という事を念頭に置き、ケアの方法を見出す努力をしている	上記と同様に職員への周知を図っている。日常的に言葉かけについては職員相互に注意を払っている。職員のメンタル面については、リーダーが随時個々に話を聴き、必要に応じて管理者につなげている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中にも制度を利用している方があり、身近に感じられるようになった。資料をユニットに置きいつでも見れるようにしている。なんとなくは理解できているが活用には至っていない	現在、該当者がおり、身近な事例として学んでいる。職員は、大まかな理解はできている。管理者は、必要性を強く認識し、必要に応じて活用を勧め、専門機関につないでいく姿勢である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接の時点で施設の考え方や、方針等をしっかりと話している。また契約時には、しっかりと時間を取って説明を行い、また質問をしやすい雰囲気を作っている	自宅に訪問し、理念や方針等十分時間をかけ、納得しての利用となるよう丁寧な説明を心がけている。自宅での生活の様子を参考にしながら、利用者や家族の意向の把握に努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会の場を設けたり、アンケートなどを実施し、家族・利用者の要望の把握、それに対するユニットでの話し合いの場を設けている。また、ケアプラン送付時には返信用封筒と一緒に、意見・要望用紙を添付している。面会時にはできるだけ話しやすい雰囲気をつくったり、何か問題や心配をかかえておられそうな家族には積極的に話し合っている。	年2回の家族会や、アンケート、ケアプラン送付時等、様々な場面を設け、意見の収集に努めている。普段の来訪時には、個別の時間を設け相談を受けることもある。運営に関する意見は特にないが、これまで衣類の清潔や整容についての要望があり、反映した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議には管理者も出席し、現場の職員の声に耳を傾けている。その場で解決できる事は解決し、組織全体で話し合うべき内容は、必ず代表者に相談をしたり会議に持ち寄るようにしている。またアンケートや個人面談も実施している。	人事考課による面談で、職員個々の意向や意見を聞き、参考にしている。会議等では、職員からの意見や提案を受け、即反映する場合もあり、必要に応じて代表者につなげている。職員から畑やプランターでの野菜作りの提案があり、今後予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けてのフォローアップや研修への参加など、向上心がもてるような環境を整えている。外部研修、施設内研修の費用、超過勤務手当などもしっかりとしており、学ぶことへの意欲が高められるようフォローアップしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に関しては、OJTの仕組みを確立している。また日々の中での各々が成長できるようにリーダーを中心にその都度声掛けや、意見交換を行っている。内部、外部の研修も計画的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡協議会に参加し意見交換を行っている。今年度は各事業所の事例発表を行っており、他施設の様子を知る事が出来、勉強する機会となっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時には本人が安心できるような声掛けを行い、思いを話しやすい環境作りに心掛けている。本人の思いを把握し情報をフェイスシートに起こして皆で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接やその前の電話連絡で、十分に困りごとを耳を傾けている。話しやすい雰囲気を作り信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には、しっかりとした聞き取りを行い、何に困っているのかの把握を行い、そのうえで入所を決定している。面接時の聞き取りを基にケアプランを作成し必要なサービスを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本情報や関わりの中で得意な事、苦手な事、好きな事、嫌いな事を把握している。1日を過ごす中で料理、裁縫、家事、レクリエーションを通して興味を引く事を探している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困りごとや、提案等はその都度、家族に相談をしている。本人にとって何が一番良い事なのかを家族と一緒に考えて答えを見出している		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特養、ショートステイ、デイサービスがある中で馴染みの人や、昔からの知り合いに会う事が出来る。しっかりと職員が把握を行い、一緒に会いに行くようにしている。	併設サービスの利用者との交流が日常的に持たれ、意向に応じて職員は同行している。正月やお盆に家族と自宅で過ごしたり、知人や友人の来訪もある。法人合同の行事を通じて、馴染みの人と交流することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所時は職員が中に入り紹介等を行っている。利用者同士のおしゃべりの中でコミュニケーションがとりにくい場合は間に入り、橋渡しを行っている。料理や家事等も一緒にやり“教えて頂く”という事を大切にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所時にはも利用者の情報を移された先に提供。またその都度相談ができるように働きかけている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面談では、本人の意向、望む暮らしの聞き取りを行っている。不安や思いを受け止め傾聴している。また言葉として発せられない気持ちを表情などから汲み取る努力をしている。家族からの聞き取りも大切にしている	担当職員を中心として利用者の情報を収集し、日常の記録や申し送りからも思いや意向を拾い集めている。利用者とのコミュニケーションに努め、信頼関係を深めることで把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、生活歴の記載提出をお願いしている。そのシートや本人、家族の聞き取りからできるだけ早く本人の生活歴や入所への経緯を知るように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る能力に対しての見極めと、負担にならない役割りの提供を行っている。生活の質を上げていくために、思いを尊重し個別の対応を心掛けている。新しい試みを行い情報をチームで共有している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場での情報をつかみ、気づき、関わりの工夫を重ねて、本人がよりよく生きるためのケアの集積を行っている。家族のニーズや体調の変化、情報の共有と検討を重ねている。	利用者を深く知ることで、声にならない思いを汲み取っている。担当職員が中心となり、利用者の特にやりたいことや生活習慣等を集約し、計画に反映させている。家族や医療関係者等の協力も得て、実現に近づける、より具体的な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活を個別に本人の言葉で記録している。担当意識をしっかりと持ち、常に個人のより良い生活の為の工夫を行っている。プラン変更時のカンファレンスには『これだけは絶対にやりたい』『そのためにどうしていきたいか』を熱い思いを持って臨み介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活を豊かにし、楽しい日々を送っていたく為多様な支援の取り組みに柔軟に取り組んでいる。たったひとりのニーズであってもサービスとして組まれる必要があれば検討を行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在近隣の協力をえて“いきいきサロン”等に取り組んでいる。少数人数ではあるが少しずつ参加し外との社会的な繋がりをた保っている。近隣の方にも施設イベント等にボランティアとして協力してもらおう取組みを行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医を中心とし、精神科・歯科等の専門医への往診、相談体制を整えている。その他の医療機関への受診も家族、本人の理解、協力をえながら行っている	契約時十分説明を行い、納得と同意のもと嘱託医が全員の主治医となっている。日頃から主治医・看護師との連携のもと適切な医療が受けられ、受診結果も家族へ報告するなど安心と信頼を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化はその都度看護師に報告し、記録にも残して情報を共有している。早い段階での状態変化や異常を察知し看護職、かかりつけ医に相談する体制を整えている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者に関する情報を病院に提供している。また退院時には家族、医師等と話し合いの場を持ち本人、家族の不安や心配の軽減に努めている	法人の看護師が毎日訪問して状態を把握している。日々の体調管理を行うことで入院を回避でき、昨年は1名の入院だった。関係医療機関との連携も良好で、法人看護師と共に退院時カンファレンスにも参加して情報を共有している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化時には、医師より家族に対し、状態の説明や今後の意向の確認を行う。その結果を踏えグループホームでできる事の説明や家族の思いの聞き取りを行う。その後看護師、介護士、ケアマネ等での終末期に向けてのカンファレンスを行い臨んでいる	看取りを積極的に行い、状態変化に応じて主治医は家族に十分説明し、意向を確認しながら利用者・家族に寄り添いチームで支援に取り組んでいる。夜勤職員の不安に対しては管理者がサポートしている。職員は家族のグリーフケアから振り返り、日々研鑽を重ねている。	振り返りの中から「もっとこんなことしていればよかった」と言う思いがあり、今後の課題として、死後訪問を行い家族の思いを知ることで今後のケアに活かして欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、消防署に協力して頂き救命救急の講習を職員全員が受けている。施設でもマニュアルを作成し急変や事故発生時に備えている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。施設で作成したマニュアル等で災害時にどの様に職員が行動するかを把握している。また運営推進会議などを通して災害時の地域の方の協力の依頼を行っている。	夜間を想定して、法人全体の連携と個々の役割を確認しながらスムーズに行動できるよう訓練を行っている。災害時の福祉避難所として指定されており、今後地域住民の協力要請も考えている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室であるため自分の時間を持ちたいときには部屋に入る事ができ、プライバシーを確保できている。しかし、共通のトイレや入浴となると職員が入り出すので守り通せていない部分もある。言葉かけにも気を付けている。	大声で歌ったり攻撃するなどの場面では、原因を分析して回避するケアを行っている。攻撃された利用者や周囲の人々へ落ち着きを取り戻せるような対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お粥の日であってもパン固定、希望に応じてバナナなどの果物をつけて対応している。飲み物・パンにつけるジャムについては選択肢がないので、選択できるものを準備していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日どうしたいか希望される方はいない。時々日光浴や散歩の希望があり、その時は対応できている。行事がある時にはその事を先に伝え、その行事に向けて動けるように気配りをしている。 <input type="checkbox"/>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛用の化粧品を使用している方もある。着替えの時には一緒に選んで好みのものを着て頂くようにしている。いつもと違うおしゃれにはいち早く気づいて声をかけ意識を高めてもらえるようにしている。月に一度の施設での散髪も自分で施行の決定を行っている。着替えを好まない方への支援に悪戦苦闘している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立作りから一緒に行い、食べ物の話題で盛り上がっている。夕食作りで簡単な作業を手伝って頂いている。食事前後のテーブル拭きや食器洗いを自分の仕事として率先してして下さる方もある。	夕食は毎日手作りで、献立はチラシを見ながら利用者と一緒に考えることもある。楽しく生き生きとした表情の変化が見られる。「ごちそう会議」では意見を言うこともできる。職員は利用者と一緒に食べていない。	負担のない回数で食事を共にすることを検討して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時15時に水分補給をしている。水分摂取量が少ない時にはアプローチはするが結果に結びつかないこともある。食事が入りにくい方には食事形態の見直しを行ったり、PTに助言をいただき、食事の姿勢を工夫したりしている。 <input type="checkbox"/>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士、歯科医に定期的に歯磨きのポイントを教えていただき、同時に困っていることへのアドバイスをいただいている。また研修で理解を深めている。超音波 義歯洗浄器を使い、週に1度義歯の機械洗浄を行っている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の様子から排泄状態を把握し、様子を伺いながら排泄の案内を行っている。都度体調なども考慮しながら排泄用品の検討を行っている。	多数はトイレ排泄を基本としている。日々の記録から水分量と排泄回数が抽出され、状況を見ながら誘導している。便秘に対しては、下剤とブラチナ体操を併用して促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行っており、無排便3、4日になると水分を勧めている。薬に頼ることが多いが、下剤の指示が出て看護師と相談の上見送ることもある。ラジオ体操などの体操を勧めている。 □		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設内の行事や催しがある場合、午前中に勧める傾向がある。曜日は決めているが、無理に入浴を勧めることはしていない。一人で入浴できる利用者には過度な支援を行わないよう心掛けている。 □	原則週2回の入浴で、その日の体調や気分を考慮しながら支援している。軽い拒否のある利用者には、無理強いせず体調管理や翌日入浴など声掛けのタイミングや誘導の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで部屋に帰り休めている。生活のリズムが狂ってきたら日光浴を勧めたり日中に活動するように心がけている。 □		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを用意している。常に見られるようにユニット内に保管している。 □		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びに溢れている生活ができているとは言い難いが週に1回の訪問パン屋を楽しみにしている方もある。月に1回のお遣いで希望の品物を購入できる。食後の食器洗いを自分の仕事とされている方がある。料理や手芸、工作、散歩などの気分転換の支援をしている。 □		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	いきいきサロンに参加している。毎回こちらで人選をし地域の方と交流している。ようやく顔なじみの関係が築け、会話も弾むようになっていく。 なかなか外出希望の声が聞かれないので職員の働き掛けで外出支援をする事が殆どである。 □	地域主催のいきいきサロンに参加して、ゲームや体操・ホウ酸団子作りなどを通して交流を続けている。外出の希望はなかなか聞かれないが、職員の声掛けで家族の了解のもと買い物へ外出している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理をしている方は数人ある。また事務所に預かり、いる時に出して使うという方法をとっている方もある。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の理解が得られている場合は電話の希望があれば出来るように配慮している。 <input type="checkbox"/>		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人間関係等に配慮しつつ、テーブル配置をしている。コルクボードの飾りつけをすることで季節を感じていただけるよう工夫をしている。 <input type="checkbox"/>	リビングには4つのテーブルがあり利用者間の人間関係や身体能力に応じて配置されている。「しつらえ委員会」があり、利用者の作品を飾り心地よい空間を工夫している。地域交流スペースや玄関横にはソファが置かれ思いのまま過ごしている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファを独りになれるスペースとして活用している。また、共有スペースが独りで過ごせる場所となり、気の合う利用者同士で過ごせる場ともなっている。 <input type="checkbox"/>		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやテレビの位置はある程度固定されてしまうが持ち込みの家具等、家族の方が本人を交えて配置している。使い慣れたものや馴染の品についてはなかなか持ちこめていない現状がある。 <input type="checkbox"/>	広い窓からの採光で部屋は明るく、自然豊かな景色を楽しめる。馴染の家具やアルバム・手芸品など持ち込んでいる人もいる。空気洗浄機が各居室に設置され感染予防などに配慮している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりが付いていて歩くときに使っている。入浴時には個々に応じ簡易手すりを付けたり外して対応している。 <input type="checkbox"/>		